

領域	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当講師
専門分野 I	臨床看護総論	1	30	1 年次	10 月	竹内佐代子
<b>授業概要</b> 看護の基本として多様な健康上のニーズを持つあらゆる発達段階の人々に、基本的な看護学の知識や技術を統合し、応用するプロセスについて学習する。「健康状態の経過に基づく看護」（経過別看護）では、個人を中心に同的な健康状態の特徴、対象者のニーズ、看護援助の特徴について学習する。また、「主要な症状を示す対象者への看護」（主要症状別看護）では、症状のメカニズムを基盤に、アセスメントの視点や看護援助の根拠について学習する。さらに、医療現場において看護職にとって身近な医療機器の原理や使用の実際について学習する。						
<b>到達目標</b> 1.健康状態の経過に基づく看護について、経過の特徴、ニーズ、看護援助の特徴について理解できる。 2.主要症状についてメカニズム、看護に必要なアセスメントの視点、看護援助について理解できる。 3.医療現場で使用される医療機器について、原理、使用の実際について理解できる。						
<b>使用教材</b> テキスト： <ul style="list-style-type: none"> <li>① 系統看護学講座 専門 I 臨床看護学総論 基礎看護学④, 2018 : 医学書院</li> <li>② 系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 II 基礎看護学③, 2018, 第 17 版 : 医学書院</li> <li>③ 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論, 2018, 第 11 版 : 医学書院</li> <li>④ 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント, 2017, 第 4 版 : 学研</li> <li>⑤ 看護技術がみえる① 基礎看護技術, 2018 : メディックメディア</li> <li>⑥ 看護技術がみえる② 臨床看護技術, 2018 : メディックメディア</li> </ul> 参考文献： <ul style="list-style-type: none"> <li>① 根拠がわかる症状別看護過程 こころとからだの 61 症状 事例展開と関連図, 2011, 第 2 版, 南江堂.</li> <li>② 川島みどり監修 基礎看護技術ガイド, 2015, 第 1 版, 照林社</li> </ul>						
<b>評価</b> 筆記試験、レポート課題、授業態度						
<b>授業計画</b>						
時間・回数	授業内容					方法
6 時間・3 回	1.健康状態の経過に基づく看護 1)経過別看護とは (1)経過別看護の視点 (2)経過別看護の特徴 2)急性期における看護 (1)急性期の特徴 (2)急性期患者のニーズ (3)急性期にある患者への看護援助					講義

領域	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当講師
専門分野 I	臨床看護総論	1	30	1 年次	10 月	竹内佐代子
時間・回数	授業内容					方法
	3)回復期における看護 (1)回復期の特徴 (2)回復期患者のニーズ (3)回復期にある患者への看護援助 4)慢性期における看護 (1)慢性期の特徴 (2)慢性期患者のニーズ (3)慢性期にある患者への看護援助 5)終末期における看護 (1)終末期の特徴 (2)終末期患者のニーズ (3)終末期にある患者への看護援助					
4 時間・2 回	2.周手術期における看護 1)周手術期の特徴 2)周手術期の患者のニーズ 3)周手術期にある患者への看護援助 (1)手術中の看護について ①直接介助・間接介助、病棟看護師の役割 ②術中体位 ③麻酔別看護					
15 時間・8 回	3.主要症状別看護 1)安楽に関連する症状を示す対象への看護 (1)悪心・嘔吐：メカニズム、随伴症状、治療と看護 (2)痛み：メカニズム、随伴症状、痛みの種類、疼痛閾値と耐性、疼痛スケール、治療と看護 2)体温調節機能に異常をきたした対象への看護 (1)発熱：メカニズム、随伴症状、熱型、治療と看護 【実技：罨法】 3)呼吸に関連する症状を示す対象への看護 (1)呼吸困難：呼吸機能のメカニズム、呼吸機能障害に関連する症状の発症のメカニズム、随伴症状、程度と分類、治療と看護 【実技：酸素吸入、吸引】					講義 演習 実技

領域	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当講師
専門分野 I	臨床看護総論	1	30	1 年次	10 月	竹内佐代子
時間・回数	授業内容					方法
	4)循環に関連する症状を示す対象への看護 (1)ショック：分類、徴候、治療と看護 (2)浮腫：メカニズム、治療と看護 (3)脱水：メカニズム、分類と特徴、随伴症状、治療と看護					
4 時間・2 回	4.医療機器の原理と実際 1)ME 機器とは 2)ME 機器を使用するための基礎知識 3)ME 機器の種類 (1)測定用 ME 機器 ①心電図モニター・血圧計 ②パルスオキシメーター (2)治療用ME 機器 ①人工呼吸器・酸素療法用機器 ②吸引器・輸液ポンプ・手術用機器					講義
1 時間・1 回	筆記試験					
備考 ○体位ドレナージ・スクイー징の技術演習に関しては、2 年次の成人看護学援助論 I（呼吸機能に障害を持つ対象の看護）で実施する。 ○周手術期の看護において、手術前・後の看護は成人看護学援助論 I（呼吸機能障害・循環機能障害）、成人看護学援助論 II（栄養の消化・吸収障害）、及び成人看護学援助論・演習（生命の危機的状態にある成人の看護過程展開）において学習する。						